

○ 市政報告等		
(1) 市長からの市政報告		
・まちづくりの転換期 ・全国屈指の森林観光都市 ・令和7年度予算規模について ・市制施行70周年記念事業 ・令和7年度の主な取り組み	1-1 健康で安心して暮らせるプロジェクト ～ネイチャーポジティブ宣言～ 1-2 健康で安心して暮らせるプロジェクト ～プラスチック一括回収の毎週収集化～ 3-1 小田急線4駅周辺のにぎわい創造プロジェクト ～OMOTANコイン～ 3-2 小田急線4駅周辺のにぎわい創造プロジェクト ～多世代交流施設の整備～ 3-3 小田急線4駅周辺のにぎわい創造プロジェクト ～はだのスポーツビレッジ～ 4-1 新東名・246バイパスの最大活用プロジェクト ～土地区画整理事業など～ 4-2 新東名・246バイパスの最大活用プロジェクト ～羽根森林資源活用拠点（仮称）の整備～ 5 横断プロジェクト「移住・定住活性化プロジェクト」 ～はだのOMOTANライフ応援事業～ ※その他の事業は、資料を別添。	市長
(2) 総合計画後期基本計画素案（基本計画及び地域まちづくり計画）の説明		
・計画の期間と構成 ・PDCAサイクルによる計画のマネジメント ・リーディングプロジェクト ・施策大綱別計画（概要） ・施策大綱別計画（概要） ・施策大綱別計画（概要） ・施策大綱別計画（概要） ・施策大綱別計画（概要） ・地域まちづくり計画 ・【地区】地域まちづくり計画 ・今後のスケジュール	・社会潮流と基本的な策定の視点 ・計画の基礎指標 ・施策大綱別（分野別）計画の体系 - 第1編 誰もが健康で共に支えあうまちづくり - 第2編 生涯にわたり豊かな心と健やかな体を育むまちづくり - 第3編 名水の里の豊かな自然と共生し安全・安心に暮らせるまちづくり - 第4編 住みたくなる訪れたくなるにぎわい・活力あるまちづくり - 第5編 市民と行政が共に力を合わせて創るまちづくり	総合政策課長

○ 意見交換

(1) 地区からのテーマに基づく市政報告

【市からの状況説明】

○大根川内水浸水区域（東海大学前駅周辺）の防災対策

<回答>

・昨年度に発生した台風10号により、秦野市では8月29日から9月1日にかけて、短時間に局地的な豪雨となった。1時間当たりの降雨量は、鶴巻公民館では67.0ミリ、城山配水場（下大槻）では75.5ミリと過去最大であり、大根地区及び鶴巻地区では特に局地的な豪雨となった。

・この豪雨により、大根地区及び鶴巻地区の中心部を流れる大根川の水位が上昇し、東海大学前駅周辺の南矢名一丁目地内では、東海大学前駅自転車駐車場の地下に埋設されている雨水幹線内の雨水が、大根川へ排水しづらい状況になり、内水氾濫が発生し道路冠水が34件、住宅等の床下・床上浸水の被害は41件ほど発生した。

・大根地区におけるこれまでの浸水対策は、新川クリニック付近への浸水被害を軽減するために、平成25年度から26年度にかけ、既存の幹線管きょを經由せず、大根川へ直接排水する経路を整備した。また、令和3年度から4年度にかけては、ほほえみ薬局付近の道路冠水箇所を通過しない枝線管きょを整備し、駅前広場や県道交差点から流入してくる既設排水管路を切り替えたことで、1時間当たり50ミリ程度の降雨時の床上・床下浸水は大幅に減少した。（H25～R4事業費総額は約1億1千万円）

・本市では、公共下水道で整備する雨水管きょは、日本下水道協会の下水道施設計画・設計指針等に基づき、5年に一度の大雨として1時間当たり50ミリ、10分あたりに換算すると約8ミリの降雨に対応する計画として整備を進めてきたが、頻発する集中豪雨や台風に伴う内水氾濫や浸水被害は、全国的にも都市部における大きな課題となっている。

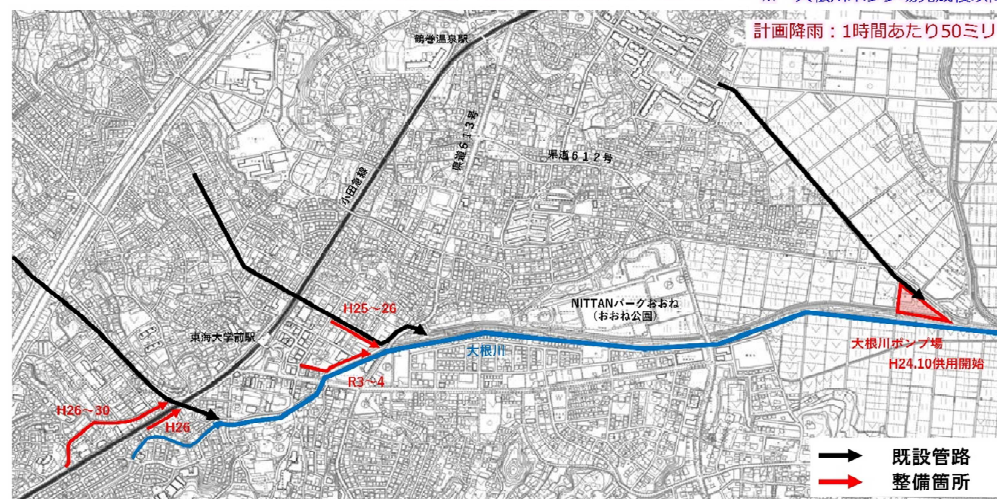
・特に、昨年度の台風10号のような鶴巻公民館で10分あたり23ミリという短時間に猛烈な豪雨のような場合、雨水管きょの排水能力の約3倍の雨量であったことから、水道計画に基づくインフラ整備だけでは限界であることが明らかになり、官民一体での減災対策が求められる。

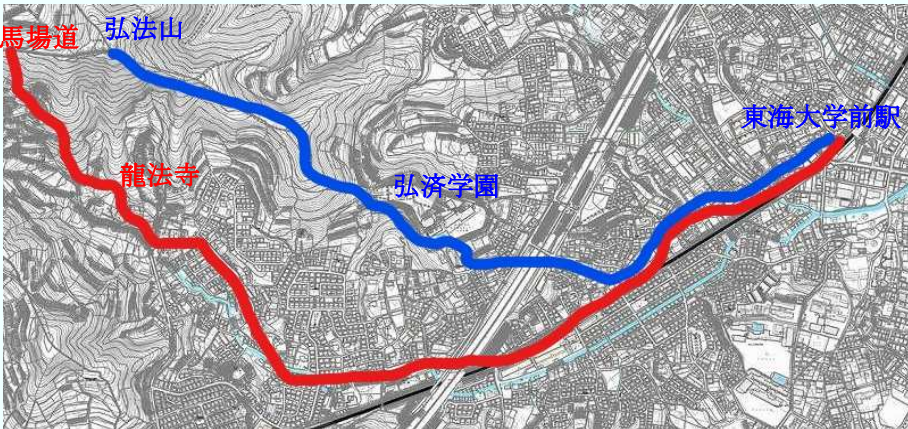
・そのため、浸水区域の雨水排水先となる大根川についての課題に対する取組みとして、令和6年度末に神奈川県による浸水被害対策検討部会が開催され、本市及び平塚市の関係部署と、大根川の農業用取水堰の管理状況の確認や今後実施できる対策について情報共有及び協議を行い、今後も市の関係部署と連携したうえで、県や関係市との協議を進めるとともに、大根川の改修整備の要望を継続していきたい。

・また、市民の皆さまの自助・共助を促すための取組みも急務と考えており、地下にある雨水管の水位を把握し、情報発信できるような、管路内水位観測システムや、少人数で短時間に設置できる簡易的な止水板について、調査研究していく。

上下水道局長

大根地区浸水対策事業

※ 大根川ポンプ場完成後以降
計画降雨：1時間あたり50ミリ

	○弘法山公園から東海大学前駅に通じる登山道整備 ・ハイキングコースについては、観光協会が出しているはだのハイキングで弘法山公園吾妻山コースとして紹介されている。特に、龍法寺に下るコースはサブコースとして紹介されている。 ・鐘つき堂の西側から弘済学園へ下るコースは、草木が生い茂っていると思っていたが、比較的良好な状態で安心して歩くことができた。また案内看板は、昨年度に登山道入り口などに10か所ほど、設置した。 ・弘法山公園とその周辺については、本市の修景整備員が定期的に草刈、倒木処理、ハイキングコースの修復などを行っている。また、大根地区に通じる登山道の一部については、地域の団体にも草刈のご協力をいただいている。 ・時期により草が伸びてしまうことがあるので、道迷いなどが起こらないよう、適切な管理に努めていく。 ・登山道については、定期的に安全確認を行い、倒木の処理や崩れの補修等を行っている。具体的な危険箇所があったら、観光振興課までご連絡をお願いしたい。	弘法山から東海大学前駅への2つのハイキングコース 	はだの魅力づくり担当部長
(意見等)	・ハイキングコースの草刈りを30名ほどで行った。階段の整備について、資材の提供をいただき感謝する。 ・登山ルートのにぎわい創出に向けて、ミカンのもぎ取り体験と組み合わせるとよいと考える。		南矢名上自治会
(回答)	・他の地域でも農園ハイクなどもあるため、ミカンのもぎ取り体験の組み合わせなども検討したい。		はだの魅力づくり担当部長
(意見・要望)	・東海大学前駅に下りるルートは2つあるので、もう一つのルートも草刈りをしてほしい。 ・ホテルのまちづくりは、ホテルが生息するまでの道筋は、大変だと感じる。 ・以前、東海大学前駅に温泉施設があったときは、東海大学前駅側に下りてくる方をよく見たが、無くなってからは、鶴巻温泉駅側に下りる人が多くなったと感じる。		南矢名上自治会
(回答)	・ホテルについて、えさのカワニナや食物連鎖などの環境が必要だが、くずはの家でホテルに詳しい職員もいるのでご相談いただきたい。 ・草刈りについては、作業員を派遣できるので、観光振興課に場所等を教えていただきたい。 ・道標があるのは確認しているため、できる対応はしていきたい。 ・現在、デジタルスタンプラリーを、4駅でやっている。参加者の集計では、東海大学前駅側の龍法寺に下りた方は1,495人、鶴巻温泉駅側に下りた方は1,470人で、このスタンプラリーに限れば、東海大学前駅側に下りた方が多い結果となった。		環境産業部長 はだの魅力づくり担当部長

	(質問) ・登山道にヤマビルが出るが、担当課で駆除等はあるか。	大根地区社協
	(回答) ・イベントなどで一掃作戦などを行ってはいる。抜本的な改善はできないが、既存の助成制度を活用できるか検討したい。	環境産業部長

(2) 市政全般(市政報告及び総合計画後期基本計画素案含む)	
(質問・意見・要望) ①外国人との共生は難しいと感じているが、市からの支援等は、何かあるか。 ②外国籍市民に生活相談窓口があることを、どれくらい周知しているか。数字で表してほしい。 ③防犯指導員としての立場もあるが、市は警察に丸投げであると感じるがどうか。土日は、警察に電話するしかないのか。 ④ゴミ捨て場のところにも、多言語で周知するなどの必要があるのではないか。 ⑤環境資源対策課に言えば、ごみの捨て方などの周知看板を設置してもらえるとということによいか。 ⑥いつまでとかはないか。 ⑦どのくらいかかるのか。 ⑧自分たちでやるしかないということか。 ⑨市で対応できていないことが分かったので、制度を推進してほしい。暮らしが脅かされているので是非お願いしたい。	北矢名第一自治会
(回答) ①外国籍市民の生活相談窓口として、ポルトガル語やスペイン語、またベトナムの中国語など、相談日を決めて外国籍の市民の方から相談を受け付けている。 ②数字等はないが、市のホームページ等で周知している。夜中に騒いでるなどがあった場合は、警察に通報をお願いしたい。 ③翌日に地域安全課にも相談いただきたい。 ④ゴミ捨てに関しては、スマートフォンのアプリで「さんあ〜る」というものでも、周知しており、6か国語に対応している。登録者は18,000人中、外国籍市民は約850人登録している。特にアパートで外国籍市民のごみ出しトラブルの声を聞いているので、オーナーに働きかけて、対応をお願いしたりしている。それぞれの案件について、個別に内容を伺わせていただき、対応させていただきたい。 ⑤～⑧その他個別の内容は、担当課にご相談いただきながら、対応させていただきたい。	くらし安心部長 環境産業部長
(要望) ・市民から道路の側溝を直してほしいなどの要望を受けたときは、結論や途中経過などのフィードバックをお願いしたい。	南矢名下部第3自治会
(回答) ・できる事とできない事はあるが、途中経過を伝えることは、職員には話している。もし具体的な事案があれば、連絡してほしい。市民からのメールやはがきは、週に1度、自分自身も必ずチェックしているほか、進捗状況をチェックできる仕組みとしている。至らない点があれば、指摘いただきたい。	市長
(意見) ・市役所にメールを送ったが、職員が見ていない時があった。返事が来ないため、受取ったかが分からないことが2回あった。	南矢名北部自治会
(回答) ・対応漏れがあったことはお詫びする。具体的な内容が分かれば、教えていただき対応する。	市長

（要望） ・土砂災害について、下流域の対策も必要だが、上流の対策も必要と感じるため、山頂の水を分散させるなどできれば、減災につながると考えるので、検討をお願いしたい。	南矢名上部 自治会
（回答） ・大根・鶴巻地区は、開発を行う際、調整池を設ける基準をより厳しくしている。抜本的には、下流域から浚渫をしっかりと行い、水をスムーズに流すことを、県に要望し、着実に工事を進めていただいているので、ご理解いただきたい。	市長
（回答） ・雨量をコントロールするには、調整池でも対応が、上流部と下流部を切り分けて考えていく必要がある。上流部での浸水はないが、一番怖いのは、土砂災害である。県では、急傾斜地の災害防止の対策を行ったり、市では、補助金を拡充したりと対応を行っている。	建設部長
（要望） ・自治会長などの担い手について、市・県職員のOBへの働きかけをしてほしい。	大根地区社 協
（回答） ・市の職員OB等にも率先垂範して、取り組んでいただいているが、より一層社会貢献が大切になると感じている。民生委員児童委員などの欠員が長い間続くと周りの方がカバーするなど、負担が生じて、なり手が不足するという負の循環にもなりかねないため、できるだけ負担軽減にも取り組んでいるので、適任者がいらっしゃれば推薦もお願いしたい。	市長
（意見） ・自治会長、地区の社会福祉協議会理事に来ていただいているが、行政の末端として、取り組んでいただいている。外国人の対応などは、みんな経験するが、対応できていない現状もあるため、現場の当事者と行政とが連携して取り組んでいけたらと感じる。	まちづくり委 員会
（回答） ・行政の末端という認識は全くないが、連携して協力しながら、まちづくりに取り組んでいきたいと考えている。 ・職員にも現地現場主義で、しっかり現地を見て、対応するよう常日頃伝えているので、いろいろと相談してほしい。	市長